

令和7年度 (宮城県立角田支援) 学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (菊池 里枝)

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|-----------|------|-----|------|------|------|----|------------|-----------|
| 研究テーマ | 児童生徒が主体的に学ぼうとする授業の在り方 ～児童生徒とともに教職員も主体的に学ぶ新しい校内研究を目指して～ | | | | | | | | | |
| 研究目標 | 児童生徒の学びを促す授業改善を進めるとともに、教職員が学びを共有、深化させる仕組みを確立し、学校全体の教育力向上につなげる。 | | | | | | | | | |
| 研究内容・方法 研究計画等 | <p><研究内容></p> <p>①学び合う場の企画、実施 (校内研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材教具展示会の開催 グループ研修の設定 <table border="1"> <tr> <td>食</td><td>ダウン症</td><td>自閉症</td></tr> <tr> <td>ADHD</td><td>肥満解消</td><td>体づくり</td></tr> <tr> <td>音楽</td><td>指導計画・三観点評価</td><td>就労に必要なスキル</td></tr> </table> <p>②「授業研究」システム構築 (授業研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の計画、実施、評価、改善、指導案の様式を含むプロセス全体をリニューアル 検討した「授業研究」についての全体報告 <p><研究計画></p> <p>4月 諸検査法研修会</p> <p>5月 研究全体会Ⅰ</p> <p>7月 教材教具展示会、グループ編成、グループごとの研修(～12月)</p> <p>12月 研修発表会</p> <p>2月 研究全体会Ⅱ</p> | 食 | ダウン症 | 自閉症 | ADHD | 肥満解消 | 体づくり | 音楽 | 指導計画・三観点評価 | 就労に必要なスキル |
| 食 | ダウン症 | 自閉症 | | | | | | | | |
| ADHD | 肥満解消 | 体づくり | | | | | | | | |
| 音楽 | 指導計画・三観点評価 | 就労に必要なスキル | | | | | | | | |
| 研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等 | <p><研究の経過></p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、本研究の1年目である。6月にアンケートを実施し、ニーズの把握を行った。1グループ7、8名で9グループを構成した。各グループに研修リーダーとファシリテーターを各1名ずつ配置し、学び合いの促進役を担った。グループごとの研修内容はある程度自由に設定することでグループのメンバー全員が気軽に研修ができるようにした。 授業研究では、授業者を支援するサポートチームを6名で構成し、授業の構想や授業に関する悩みを相談できる場を設定した。 <p><研究成果></p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの校内研修では、多くの資料が提示され、専門的知識や実践、指導観、指導法などがベテランから初任者まで幅広く共有され実りの多い研修となった。 研修発表会では、各グループの研修リーダーからそれぞれのグループで研修した内容を中心に報告しあった。いずれも、教員間の情報を共有し、学び合いの場となった。 小学部の音楽の授業をモデルとして行った。授業者の思いや悩みをサポートチーム(支援者)で共有しながら進めた。事前ミーティングでは児童の実態等を共有し、1回目の授業実施後には改善点等の提案をする事後ミーティングを充実させることができた。それによって2回目の授業では児童の主体性が高まる取組へと改善が見られた。 | | | | | | | | | |

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。